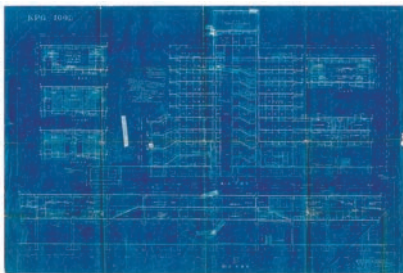




(株)東畑建築事務所
松村 健

今回のテーマは、「瀬戸内海で建築とアートを巡る -高松・直島-」ということとして、1日目はモダニズム建築の代表作である丹下健三氏による香川県庁舎東館を中心とした高松市内の建築物の視察を、2日目は安藤忠雄氏等、国内外で活躍する建築家の作品が集まる直島での建築やアートの視察と、異なる時代の著名な作品に触れることができました。



香川県庁舎東館断面図 (パンフレットより)

香川県庁舎断面図 (パンフレットより)

1. 研修会1日目

1日目は、四国村、高松市内のモダニズム建築の視察、そして香川県庁舎東館の免震レトロフィット工事の現場見学でした。

まず、四国家家博物館「四国村」という古民家等が集まったテーマパークのような施設を視察し、その後、高松市内の建築の視察、見学に向かいました。

1つ目は、丹下健三氏の代表作であり、異色の作品である舟形形状の「香川県立体育館」でした。現在は閉鎖中で、外からの視察でしたが、建物全体が構造体といえる迫力のあるスケール感、少なくとも写真で見ると異なる臨場感は伝わってきました。

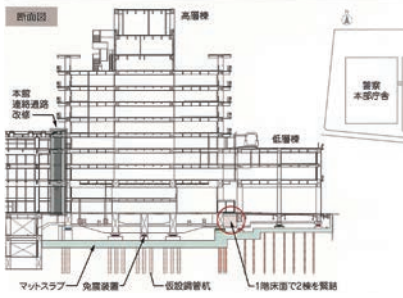
2つ目は、「香川県立武道館」であり、先述の体育館と100m程度の場所に位置する建物です。設計は、県庁建設当時の県営課担当者であり、丹下作品の影響を感じさせる、木組調のコンクリート打放しの外観です。この建物は、内部も視察することができましたが、武道場の屋根架構は、ダイナミックな大断面のクロス梁(おそらく鉄骨造)を正方形平面の対角上に配置する架構形式で、表現方法のシンプルさは参考になるところです。



3つ目は、「百十四ビル」の主にダブルスキンによる外装改修の視察です。この建物もDOCOMOMOに選定されているモダニズム建築の代表的な作品で、設計は日建設計です。視察では、特に、改修が行われたダブルスキンの内部からの観察、屋上からダブルスキンフレームの取付け状況を見ることができました。

4つ目は、1日目のメイン企画である「香川県庁舎東館」の耐震改修工事の見学です。この建物は、丹下健三氏の代表作で初期の傑作と評されており、構造は、坪井善勝研究室によるものです。今回は、現在施工中の免震レトロフィット工事を見学することができました。香川県営繕のご担当者、実施設計・施工を担当されている大林組のご担当者から工事概要のご説明を頂きました。今回の改修計画の特徴は、建物の1階床下に免震層を設けた免震改修ですが、免震層を設置するまでの、仮設鋼管杭による仮受け、直接基礎下の

免震構造計画概要



地盤改良、積層ゴム支承の圧縮変形を調整するプレロード用の薄型ジャッキなど、様々な技術を紹介していただきました。見学当日の作業状況は、低層棟部分は、仮設鋼管杭の打設が終わり、

建物の仮受けをし、免震装置の設置、基礎の構築をしている段階で、高層棟の方が、1階床下を掘削し、仮設鋼

管杭を打設している状況でした。特に本館側は、床下を掘削した後の基礎梁にまだ地盤が付着しているような状況の中で1m程度の短い杭を継ぎながら打設しており、工事の大変さが伝わってきました。免震レトロフィット工事自体は過去に事例はいくつかありますが、直接基礎で実施するのは初めてということのようで、大変貴重な機会でした。

2. 研修会2日目

2日目は、直島に渡り、島内に点在する建築家による建物、アートを視察しました。建築としては、2004年に設立された安藤忠雄氏による「地中美術館」、妹島和世氏+西沢立衛氏による「海の駅直島」、2017年建築学会賞作品である三分一博志氏による「直島ホール」を中心に、アートとしては、草間彌生による「南瓜」、藤本壮介による「直島パビリオン」、アートプロジェクトである本村地区の「家プロジェクト」等を視察しました。直島は広く知られているように、ベネッセのアート活動により、島全体が建築やアートに彩られたような場所であり、島の大きさもそれほど大きくなく、バスや自転車、みなさん思い思いの方法で目的の場所を視察して廻られていました。特に、本村エリアは、伝統的な焼杉板と白漆喰の土塀からなる古民家が狭い路地沿いに並び、ノスタルジックな雰囲気を醸し出した街並みが大変印象に残りました。その中で古民家を改修した「家プロジェクト」は建築とアートが融合した他では見られない建築のスタイルを体験することができました。

3. おわりに

今回の研修会は、内容が非常に充実しており、視察、見学した建物は著名な建物ばかりでしたが、実際に見たことが無い、じっくり見たことが無いという建物も多く、大変よい機会でした。日々の設計にもどこかで活かせることができればと思います。

